東山荘だより

（題字は元同盟委員長　故 北村徳太郎 氏）

２０１６年　秋（あき）

発行人・堀口　廣司　発行所・YMCA東山荘　四一二-〇〇二四　静岡県御殿場市東山一〇五二　電話　〇五五〇(八三)一一三三　ファックス　〇五五〇(八三)一一三八

富士山ならではの自然あそび「ナメ滑り」　　写真：堤　雄一郎（ネイチャープログラムスタッフ）

富士山には噴火で流れ出た溶岩流上を、雨や雪解け水、時には雪崩が長い年月に渡り流れることによって、その表面がすべすべになった滑状溶岩流（なめじょうようがんりゅう／通称・ナメ）が至る所にあります。普段は水無しの涸沢ですが、雨が降るとあちこちに見事な滑滝が出現します。そこで雨の日はさながら鯉の滝登りのように、流れに沿って遡行する「ナメ登り」が楽しめます。一方、晴れの日は、このナメが格好の滑り台になるのです。

写真は「晩秋のこども自然キャンプ」の一コマで、この天然の滑り台は落差約８ｍ、斜度約50度、初めに安全に滑るためのいくつかのコツを教えますが、初めての子は立ちはだかる岩の壁を目の前にして表情は凍ったままです。でもベテランの子たちが水の流れのようにするりと滑り落ちる様子に初めての子も勇気をもらい、すぐに慣れ、見る見る上達します。やがてみんなが上手になると、彼らの滑る→登る→滑る…のサイクルは見ていて目が回るほどにスピードアップ。ひと気の絶えた晩秋の富士山に、こどもたちの弾む息づかいと足音、そして歓声だけが響きます。

時にヒヤッとしたり、少し痛いこともあるけれど、それを遥かに凌ぐ楽しさがあり、気がつくと誰もが夢中になってしまうのが自然あそび。やはり自然の中にこそ、本当の遊びがあるのです。

文　白鳥　裕之
（ネイチャープログラム主任）

日本YMCA職員研修ステップⅡ開講

９月20日、新本館のグランドオープンとともに開講しました。今年は盛岡、仙台、とちぎ、茨城、東京、横浜、大阪、神戸、せとうちの９ＹＭＣＡで、中堅スタッフとして現場での責任を担っている14名を迎えました。彼らの業務や研修に参加するまでの経験はさまざまですが、それらを超えて切磋琢磨できるのがステップⅡ研修の特色です。研修はＹＭＣＡの使命の理解やキリスト教理解、組織運営、社会や地域の課題への取り組みなど、ＹＭＣＡ運動を推進する主事に必要な知識やスキルをカリキュラムに基づき学び、各自の課題やテーマに沿った修了論文を作成します。東山荘と在日本韓国ＹＭＣＡで行う座学のほか、今年も韓国でのフィールドトリップが予定されています。75日間の研修が実り多きものとなるように、東山荘ではスタッフ一同、研究生をバックアップしていきます。また長期に渡る学びを支えてくださっている、研修期間中の現場を守るスタッフやご家族にも感謝をしています。

新本館が完成しました

構想８年、２００７年の東山荘将来計画検討委員会の答申を踏まえ、新生東山荘委員会での協議、募金委員会も１００周年記念募金委員会（１次募金：４，１５９万円）と１００年募金委員会（９月末２次募金：８，１９２万円）の２つの委員会を経てリーパー記念ロッジ、ネイチャーセンターの建設。５・６号館内装改修。職員によるＡ～Ｄ浴室内改修、３・４号館内装改修を終え新本館の建設を持って今回の東山荘改修工事を終えることができました。

新本館の建て替え場所については６つの案が出されましたが、結局は１００年前の本館の跡地に１００年の森を包むように建てられました。

この新本館は食堂からも講堂、会議室からも森の木々の緑が窓一杯ににに広がり朝日と夕陽の時間は緑の光の国に変化します。是非ご覧にお越しください。

from the Secret Garden

瞑想に脳を活性化させる効果があるという話題を見聞きする機会が増えています。

ネイチャープログラム「ふじさんぽ」等で野山を歩く時にも、瞑想と同じような状態になるのではないかと感じています。

「ゆっくりの呼吸に合わせて、歩くことに集中する」。これは、富士登山プログラムの際に、スタッフやリーダーが繰り返し伝える大切な約束です。

歩調と呼吸をぴったり合わせられるようになると、長時間でもラクに歩けるようになり、気分も良くなっていきます。

こども富士登山キャンプの対象は小学１年生からですが、小さな子も昔小さな子だった人も同じように、瞑想状態のシータ波を出しながら、仲間と共に快適に山道を進んでいきます。

編集後記

金木犀・銀木犀の香りが風に漂う季節です。大切に残したクヌギの近くに新本館が建ちました。木の間越しに移植した木々や芝生広場に隣接する建物、東山湖の向こうには丹沢の山並みを望む美しい場所です。是非お出かけください。

お申し込み・お問い合わせ

資料のご請求は…

日本ＹＭＣＡ同盟　東　山　荘
〒412-0024　静岡県御殿場市東山1052
ＴＥＬ　０５５０－８３－１１３３
ＦＡＸ　０５５０－８３－１１３８
Ｅ－mail:tozanso@ymcajapan.org
http://www.ymcajapan.org/tozanso/

季節の一品　～厨房だより～

野菜あんかけ焼きそば

●材料（４人分）

焼きそば麺	4玉
豚こま肉	120ｇ
玉葱	100ｇ
人参	50ｇ
もやし	1袋
しめじ	1/2Ｐ
ニラ	1/3束

●調味料

水	300cc
醤油	小さじ4
酒	小さじ2
オイスターソース	小さじ1.5
コンソメ顆粒	小さじ1
塩・砂糖	小さじ1.5
胡椒、胡麻油	適量

片栗粉・水　大さじ3

●作り方

①水、醤油、酒、オイスターソース、コンソメ、塩、砂糖を合わせておく
②麺をほぐし、フライパ何に油を入れて炒めて保温しておく。
③フライパンで豚肉を炒め、火が入ったら玉葱、人参、しめじ、もやしを加えて炒め、①の調味料を注ぎ入れる。
④③が沸騰したら弱火にして水溶き片栗粉を加えてとろみを付け、ニラを加えて混ぜる。
⑤②の麺を器に盛り、④のあんをかける。

旬の野菜で彩りよく
おいしく作ってくださいね！

主催プログラムのごあんない

●第51回年末年始家族パーティー◎
日　程　12月30日(金)～1月3日(火)

内　容　新本館での初めての年末年始です。新しい建物と懐かしい顔ぶれ、変わらず楽しい盛りだくさんのプログラムをご用意して皆さんのご参加をお待ちしております。

尚、今回から期間を1日短縮しましたが、延泊のご希望も承ります。お気軽にお問い合わせください。

※詳しくは同封のパンフレットをご参照ください。

東山荘が大きなひとつのおうち、家族になります

最新情報はこちらをチェック！！

東山荘ホームページ
http://www.ymcajapan.org/tozanso/

東山荘フェイスブックページ
https://www.facebook.com/ymcatozanso

東山荘ネイチャープログラム　ＦＢ
https://www.facebook.com/natureprogram

ネイチャープログラム通信

●こども富士登山キャンプ●
8月10日～13日

富士登山は水垢離から。東山荘横を流れる内寒沢で滝に打たれ、さるボードＢＳＳに大歓声をあげ、心とからだをほぐして旅の仲間との一体感を一気に高めました。

富士登山期間中は天候にも恵まれ、登頂やおはちめぐりの達成感はもちろん、２日続けて見られたご来光、街灯りの届かない砂の上に並んで仰いだペルセウス座流星群も堪能でき、終始穏やかに時間が流れました。

年齢や性別を超えた「仲間」という時間が何より楽しかったという声がたくさん聞かれました。

６割以上がリピーターの登山キャンプは、「去年より逞しくなった自分」を実感できる時でもあるようです。

●のんびり楽しく富士山登頂●
8月25日～28日

北海道から九州まで日本中広い地域から集った、６歳～60代の幅広い年齢層の仲間が富士山の旅を共にしました。

大きな家族のように和気藹々とした仲間との時間は明るく和やかで楽しく、こども達の姿に励まされる大人の姿も微笑ましいものでした。

「一生に一度は」との思いで参加されて以降、毎年ご一緒するリピーターも増えています。

出張プログラム承ります

東山荘オリジナルのプログラム各種は、ご都合の良い時間と場所でご利用いただけます。詳しくは、予約係までお気軽にお問い合わせ下さい。

◎２０１６養徳園サマーキャンプインＹＭＣＡ東山荘◎

8月20日～24日

ＣＷＳ(Church World Service)と日本ＹＭＣＡ同盟の協働によるこのプログラムは、多くのドナーに支えられ東日本大震災後の支援活動の一つとして定着してきました。

今回は、栃木と福島に施設を有する社会福祉法人養徳園の小学生～高校生並びに職員の皆さん44名をお迎えしました。

日常から離れた場所での活動に、子供たちのわくわく感は強かったようです。また、引率職員の皆様にとっても、子供たちの日常とは違う面での関係性に触れる機会だったのではないでしょうか。ＹＭＣＡ東山荘を取り巻く大自然、とりわけ22名が初めての富士登山に果敢にチャレンジした経験が、これからの人生の糧となるよう期待しています。

自然の中で過ごす時間を共有し、様々な活動の中で、共に笑い、共に動き、共に考えるなど貴重な体験活動も多くありました。知らず知らずのうちに、チームとしての働きが形成されていくチームビルディングのプロセスは、ＹＭＣＡが本来得意としている、グループワークの手法から生かされていくものであり、アプローチの仕方、組立て方によって、様々な課題を持ったグループが、すばらしいチームに変容していくのを垣間見られます。今回も、チームとして課題を発見して、課題にチャレンジし、解決していくそのプロセスにこそ、キャンプを通したダイナミズムを実現できているのではないかと感じました。今後も、多くの支援をいただきながら、持続可能な事業として、ＹＭＣＡ東山荘とその周辺の大自然が活用されることを切に願います。

最後に、東日本大震災から6年目を迎えていますが、まだまだ、心身のケアを必要としている多くの方たちがいることを覚えて、東山荘の使命を全うできるようプログラムを展開していけるように希望しています。

夕陽（せきよう）の風 20

東山荘所長　堀口　廣司

東山荘が出来る25年前のこと。北米スプリングフィールド大学教師のギューリックによるＹＭＣＡの赤三角形は１８９１年にできました。「SPIRIT, MIND-BODY」の３辺の均衡の取れた全人教育こそが青年教育の目標との理念が誕生し、日本においても文部省が体育―知育―徳育の均衡の人格形成を推奨しました。昨年スプリングフィールド大学の学長が東山荘シンポジュームで全人教育の変わらない重要さと新たな教育理念であるHumanic（人間教育・人間力）について話され、個性が人格としてとらえられることを強調していました。大学のゴールは「隣人に仕える人を育成すること。」と話してくださいました。

東山荘１００年の歴史は理想を求め、イエスの愛という教えが社会の中で多くの人を助ける実践行動となるための知行合一の世界観を実現することにありました。また、夏季学校においてもＳＣＭ（学生キリスト教）運動の高揚と左翼化や全共闘運動による大きな影響を受け解体することもありましたが昨年の夏期ゼミは１００名、今年は82名の参加者が全国から集まって来ました。このことは右にも左にもイデオロギーの極に至ることなく、其の時如何に行動することで一致していくかを求めたことにあり、社会の中での理想の実践は他者の中で互いに仕えあうことにより自己形成・自己実現してきた夏季学校の歴史そのものであることが分かります。明治人の中庸の世界を求めることにも繋がるし、東山荘が誰をも排除せず青年の居場所としてあり続けている所以です。吉野作造の民本主義にしても賀川豊彦の立体農業にしても広岡浅子の女性企業家の社会貢献事業にしても愛から出たものであり良い意味での人情家集団の組織がベースになっていたと言えるでしょう。愛と人情をいっしょくたにすることは危険ですが東山荘の先人のように他者のために生きる人間力＝ヒューマニックの実践運動が日々の営みとなっていく東山荘の今日でありたいです。

第44回全国学生YMCA夏期ゼミナール(9/9～12)

毎年学生自身が企画・運営を担い開催される、学生ＹＭＣＡの夏期ゼミナール。第44回を迎える今年は、「Stand by Me/You～生きづらさと向き合う～」のテーマの下、全国20大学から82名の学生、シニア（ＯＢＯＧ）、講師、スタッフらが集まりました。

講演では、多様な価値観にあふれ流動化・分断化が進む現代社会において、ひとり一人が抱える「生きづらさ」について語り合い、他者の「生きづらさ」や社会の問題が、わたしたち自身にどうつながっているのかを学び考えました。

また聖書研究では、新約聖書の「よきサマリヤ人のたとえ話」から、隣人とはだれか、いかに共に生きるかについて、それぞれの思いを分かち合いました。

参加者たちは、講演や聖書研究、学生・シニアによる自主ゼミ発題やグループディスカッションなどを通して、互いの声に聴き、自分自身に向き合う３泊４日を過ごしました。

また、夏期ゼミナールの前身となる夏季学校の常設館として創設された東山荘の歩みを思い、旧本館最後の時間を惜しむとともに新本館での再会を約束して、それぞれの地に戻っていきました。

YMCA地球市民育成プロジェクト2016夏期研修(8/29～9/4)

事務局が東山荘に移って最初の夏期研修には、国内研修生30名、中国、韓国、台湾、香港、カンボジア、東ティモールからのユース14名、開発教育や国際協力の分野での高い専門性を持つリソースパーソンと運営スタッフをあわせ総勢約60名が参加しました。

グローバル時代を生きるユース世代の分析力、対話力、行動力を引き出すことをテーマに通年で行っている本プロジェクトのカリキュラムで最も重要な夏期研修では準備していたワークショップやフィールドトリップに加え、二人の東ティモールからのリアルな参加者の声を取り入れたケーススタディを急遽行い、プロジェクトの特色である参加者が互いに学びを深めあうことができました。

今年は東山荘から横山幹スタッフが研修生として参加し、全国やアジアのＹＭＣＡから集まった研修生とともに１週間を過ごし、一回り成長して東山荘に戻ってきました。

夏期研修を終え、横山スタッフをふくめた研修生は期間中に作成したアクションプランの実現にむけ、自分の所属する場所で活動を始めています。

夏期研修の終わりは研修生にとっては次のステップへの始まりの時。来年３月の地球市民認証式まで、事務局では研修生たちの歩みをしっかりと見守っていきたいと思います。